

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	2072600444		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	グループホームグレイスフル日義		
所在地	長野県木曾郡木曾町日義2752-1 (電話) 0264-26-1211		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月8日

【情報提供票より】（平成21年 3月 3日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	・1ユニット目…平成15年 5月 1日	・2ユニット目…平成 18年 11月 15日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	11 人	常勤 11人, 非常勤 0, 常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	27,000円～36,000円	その他の経費(月額)	光熱水費23,400円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年 3月 3日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	3	要介護 2	7
要介護 3	7	要介護 4	1
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 83.8 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・長野県立木曾病院 ・木曾ひよし診療所 ・ゆうあい歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山あいを走る木曾路から木曾川方向に曲がると宿場町の面影を残すその奥に洋風の建物の当ホームがある。旧日義村にはグループホームやデイサービスがなかったので行政側の要望で設立された。その後2005年には4町村が合併し木曾町となった。職員は月一回地区で介護者教室を開き、地域住民に認知症への理解や予防等の啓蒙活動を行っている。夏祭りには家族と地域住民を、また、創立記念の5月にはボランティアを招待し感謝の気持ちを伝えている。入居者の暮らしぶりは詳細に書かれた手紙で担当職員から伝え、家族が集まる機会には一年間の入居者の表情をスライドで紹介し、家族からは暮らしぶりが良く分かると喜ばれている。重度化に関しては医療面でのホームを取り巻く環境にやや厳しさを感じながらも個々のケースに応じた心を尽くし対応している。入居者も職員も共に地元の人で、大屋根の下、家族同様に仲良く、のんびり、楽しく暮らしている。今後更なる発展を期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の外部評価で見出された課題は改善に向け取り組まれた。夜間入浴に関しては入居者の希望に沿いながら支援している。身体機能低下の入居者の楽しみごとへの支援に関しては家族と相談しながら個別対応を充実させている。理念に関しては皆で話し合い独自の理念を作り上げた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 今回は職員の交代が続いたため、管理者は評価の意義や活用方法を説明し実施した。自己評価で職員は振り返りや提供しているサービスについて出来ていること、出来ていないことを確認しサービスの質の向上に活かすことが出来た。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 木曾町職員、広域連合職員、第三者委員、地元組長、消防署職員、消防団員、ボランティア代表、利用者家族等大勢参加し定期的に開催されている。ホームの活動報告や課題を出し有意義な意見交換が行われている。参加者から頂いた率直な意見や助言を職員に報告しサービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族と話しをする機会を多くもち、ホームに対する意見や要望を積極的に伺っている。表出された貴重な意見はその都度、話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 地域の各家庭をまわる回覧板はホームも経由している。保育園児やアニマルセラピー・行事のボランティアなど多くの訪問を受けている。また学校の先生や高校生、中学生の研修や実習場所に開放している。外出時には住民との挨拶や会話など、一寸した機会を活かしながら地域の人達との交流に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を全職員で学び理解に努めている。法人の理念に加えホーム独自の理念をつくり上げた。	○	今後、理念を見直す機会があれば地域住民との交流に関しても併せて検討されることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念とホームの理念を並べて掲示している。また、申し送り時には唱和し意識付けをしている。職員はホームの理念を語ることができ、日々実践している様子を知ることができた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の各家庭をまわる回覧板はホームも経由している。保育園児やアニマルセラピー、フラダンス、大正琴など様々のボランティアの訪問を受け交流している。毎月、すしの日がある。寿司職人が握る寿司は入居者には大好評であり、恒例の行事となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の交代等もあり自己評価を行うにあたり評価の意義や活用の仕方について全職員で理解に努めた。自己評価では自分たちが提供しているサービスについて出来ていること、出来ていないことを確認し、出来ていない事項に関しては改善に取り組んだ。		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や消防関係者、地域役員、ボランティア、家族、職員と大勢参加し、概ね二ヶ月毎に開催している。会議でホームの活動報告のほか課題を用意し、参加者から意見や助言を頂いている。頂いた意見はホームの会議で報告し、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	学校の先生や高校生の研修場所として、また、中学生の福祉や職場体験の場所としてホームを開放し入居者や職員との交流にも活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭面については毎月の利用明細を家族に送り、出納帳は半年毎に確認印を頂いている。健康面は面会時と必要があれば電話でも報告している。日々の暮らしに関しては写真入のホーム便りと一緒に入居者の担当者が詳細に書きとめた手紙を添えて報告している。家族が集まる機会に入居者の一年間をスライドで紹介し家族から喜ばれた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画の説明時、電話で話すときなどにホームに対する意見を伺うようにしている。また、家族会ではないが年2回家族が集まる機会を設けているのでその場でも意見や要望を伺っている。貴重な意見はその都度話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援を基本としている。今年度は離職などで職員の交代が続いたが引継ぎの期間を工夫したり、また、職員の教育担当者が新人教育に関わるなどの取り組みにより入居者への影響を最小限に抑えることができています。		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会や学習会の機会が多くあり職員は交代で参加している。海外研修やグループホーム全国大会へ参加する機会もある。介護支援専門員や介護福祉士など資格取得の奨励制度が設けられている。法人全体で職員の育成、資質向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内のグループホームとの交流は行っていないが下諏訪、諏訪、岡谷、辰野等にある同じ法人のグループホームと切磋琢磨し、その地域に合ったサービスを模索しつつサービスの質の向上に励んでいる。地域の高齢化社会を担っている関係事業所や施設などとのネットワークづくりの核となっただけの実力を備えたホームである。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に関しては本人、家族が安心して開始できるように相談しながら決めている。併設のデイサービス利用者の入居や申し込み、相談もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である入居者から昔の話を聞いたり、生活の技を教えてもらっている。入居者と話すことで何時も何かしら教えられることがあると職員からも伺った。入居者と職員との会話から、お互いが信頼しあって共に支えあいながら暮らしていることが自然に感じられた。		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や思いを把握するため毎日声をかけて確認している。意思表示が難しい場合は家族や職員間で情報交換し本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく生活できるよう家族や本人から要望を聞き、介護計画を作成している。作成された介護計画はカンファレンスで報告し更に検討し、個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の効果確認、状況把握を定期的に行っている。遂行状況を見ながら異常や変化が生じた際には直ちに見直しを行ない新たな介護計画を作成し家族に報告している。NMスケール、心身状況8項目表は3ヵ月ごとに（若しくは異常時も）確認した上で計画内容の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や受診、買い物などの外出は家族の都合が悪い時に付き添うこともある。住民対象に月一回地域に出かけ介護予防教室を開き、認知症への理解や予防の啓蒙活動に取り組んでいる。時には音楽療法も取り入れることもある。		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿っている。家族の希望で月1回の往診を受けている。かかりつけ医に受診する場合には職員も付き添うことがあるが、家族のみの場合には情報提供書を作成し医療機関と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に関わる指針があり、契約時に本人・家族に説明し同意を得ている。今回の評価前に、状態変化のみられた入居者の家族と主治医、ホーム側と話し合い、隣市の病院に移動が決まったが、直後に状態が変わり、家族と共に看取りの支援をし、最期を迎えられたことがあった。看取りに関しては環境など様々な問題もあり模索しながら対応している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱い、守秘義務に関しては職員教育が行われており周知徹底を図っている。申し送り時やカンファレンスで職員の意識向上を図り、入居者のプライドやプライバシーを損ねない対応の徹底に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がその人らしく生活できるように一日の予定はあっても柔軟に対応している。“つぶやき集”を活用しながら一人ひとりの思いの把握に努め支援している。		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量にあわせて食事の準備を一緒に行っている。料理の匂いを感じ食堂に集まってくる方、出来上がった料理を説明する職員の話に耳を傾ける方など思い思いに楽しんでいる。話題が旬のフキ味噌から広がり、和やかな食事の光景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望にあわせて夕方16時頃から始めている。嫌がる入居者には午前中から入浴への働きかけを行ない、徐々に入浴したい気分を高めてもらうなどの支援を行っている。入浴は毎日可能であり半数以上の方が毎日入浴を楽しんでいる。入居者は徐々に身体機能が低下してきているが、入浴に関わる職員を増すことで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は本人が出来ること、やりたいことを心理面を含め情報を共有している。行きたい場所があれば家族と相談しながら個別対応し、また、居室に電話を引いている方、家族に手紙を書く方などホームでの生活が喜びや満足感に繋がるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい時期にはホームの周辺を散歩したり、ウッドデッキに出て青空の下自然を満喫している。近くのスーパーに交代で買い物に出かけることもある。時には花見や紅葉狩りのドライブ、個別の外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方17時以降は施錠している。誰かに面会があったり、気持ちを躍らせるような出来事があった時などには入居者は反応し、外出傾向になりやすい。そのため細心の注意を払い、見守りながら鍵をかけないケアを実践している。		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月一回ホーム内で防災模擬訓練を行っている。年二回消防署の指導の下、地区消防団や地区役員参加の中、防災訓練を実施している。消防署の協力を得て救急法、心肺蘇生術の研修を年一回受けている。スプリンクラーの設置は現在一部のため22年に向け残りの部分を検討中である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士の資格保持者がおり献立に目を通し栄養バランス等を確認している。地元の食材を使い、旬の料理が献立にあがる。嚥下機能の低下した入居者であっても希望を聞きながら本人が食べたい形のものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立派な段飾りのお雛様が飾られている居間に早春の陽ざしが大きなガラス戸を通して差し込んでいた。キッチンでは入居者と職員が一緒に昼食の用意をしていた。居間全体に料理の匂いが漂い、ソファには入居者が寄り添いおしゃべりをしていた。のどかでのんびりとした時間が流れていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの居室にはベッドや机と椅子、愛用していたと思われる桐のタンスセット、家族との連絡用の電話、外出用の沢山の洋服などが見られる。本人が安心して落ち着いて過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。